

○奈良教育長 教育委員会協議会を開会いたします。

まず、教育委員会の活動状況について、事務局から報告をお願いいたします。

山下教育政策課長。

○山下教育政策課長 それでは、教育委員会の活動状況について、ご説明させていただきます。

教育委員会の活動状況、令和2年3月をご覧ください。

表にございますとおり、左から、活動の日時、会議・行事等、場所、出席者を記載しており、上段の3月5日の臨時校長会をはじめ、令和2年3月中の活動内容を記載しております。詳細につきましては、資料のとおりでございます。

以上、簡単ではございますが、ご説明とさせていただきます。

○奈良教育長 続きまして、委員の活動について、所感の報告をいたしたいと思います。

それでは、委員を代表して、近藤委員から報告をお願いします。

近藤委員。

○近藤委員 今年2月から本日現在で、COVID-19が、全世界で罹患数297万人、死亡者が20.6万人と猛威を振るう中、臨時休校に伴う弊社教育現場の職員、管理職の皆様、あるいは教育委員会事務局の職員の皆様、過去に経験のない多忙な現場対応をしていただいていることは容易に想像がつかます。まだ収束の見えない状況での様々なコロナ対策対応に伴う催事の延期、中止、または諸条件の整備設定の相次ぐ判断は、大変な心労を伴う業務執行であると深く感謝いたします。

さて、新年度に入り大幅な組織改編の中、教育委員会も3部から2部に組織変更となり、本庁への移管業務以外を全て2部で執行となり、皆様へは、さらに多くの業務を実行していただくこととなるわけですが、逆にさまざまな業務推進においては改善を図る、よいタイミングとも感じています。残すべき必要な踏襲業務と改善すべき業務とのセグメントを、ぜひ上席との業務改善点の見直しを行っていただき、働き方改革の推進を進めるべく、よきタイミング、よき機会にさせていただけることを強く願います。

現状、非常事態宣言の自粛の中では、テレワークを活用する企業も多く、接触は最低限にとどめる行動変容を求めています。3月中策定の教育大綱を反映しての枚方市教育振興基本計画、学校園の管理運営に関する指針の策定とコロナ対応という極めて繁忙業務の中、くれぐれも皆様におかれましては、体調の管理を重ねてご留意いただくことをお願い申し上げます。

いよいよ新年度に入り、小学校においては新学習指導要領に基づく授業実施へのさまざまな課題も出てくることでしょうし、とりわけ小学校での英語教育、プログラミングでの授業計画策定等、ICT機器活用等々、現場の試行錯誤は続いていることと推察いたします。

ここで、先々月になりますが、2月に娘の住む米国テキサス州に行って体験してきたことをお話させていただきたいと思います。

常日ごろ、お話させていただくことの多い、2045年に来るであろうAI、人工知能が人間の能力を超える技術的特異点というものについて、娘婿がたまたまですがパソコンのエンジニアとい

うこともあり、雑談の中で、彼いわく、AIは人間の能力を既に超えているとの見解を述べられ、一例、スマホ程度でも、さまざまな機能や音声通訳アプリ等々の説明を受け、今手にするスマホやタブレットの機能が飛躍的に進歩していることに追いついていない自分の現状を実感しました。

例えば、近隣のスーパーマーケットに食料を買いに行くと、レジに人はおらず、ボックスに入れ一瞬でパソコンで料金表示が出て電子決済をする店が多く、これらの店では顔認証システムでID確認されており、万引きなどの防止に充てているとのことでありました。家のスマートハウスからさらに進化しており、ホームコントロールは5G、スマートフォン上でセキュリティや車庫の扉の開け閉め、電源のオンオフ、照明のオンオフ、出先から留守宅をウェブカメラで家の中の監視をするなど、ほとんどのことができておりました。

折しも、2月中旬は米国でもコロナウイルス報道で、中国武漢や横浜停泊の客船映像が流れ続けており、その数週間後には、皆さんもご承知のとおり、ニューヨーク、ロサンゼルス、ワシントン、ニュージャージー州では外出禁止令が出て、テキサス州も皆さん、人込みの場所には外出をなるべく控えておられる現状でした。今現在では、食料品などもスマホで注文し、決済し、玄関まで配達や、市場の駐車場で待つと車まで持ってきてくれるということだそうです。

さて、本題に戻りまして、先月3月18日定例会で、意見として述べさせていただいた項目と重なりますが、弊社ICT導入の計画での2018年から5カ年計画で、先の市議会で示された今年度の予算でICT環境整備で8,000万円、国策としてのICT関連予算も後からつき、これは全国の市町村で同条件となりますが、先行し実施計画を執行中の弊社にとっては大きな追い風となるはずですが。追い風を利して、順風で船を走らせるには、文教委員会所轄事務調査報告でありましたとおりで、学校現場と教育委員会との一体取り組み、組織体制づくり、引いては研修体制づくり、授業の質の格差をつくらず一定の高い質を担保とあります。これらにつきましても早々にそれぞれの体制構築に着手していただいていることも報告を過日受けております。

3月18日委員会定例会、議案32号、枚方市ICTを活用した学校教育の考え方の基本目標、方針で示された授業、放課後、家庭における活用についての計画もしていただいております、私の理解は、ICTは活用する場所を選ばない、これを最大に生かすには、他市に学び、学校現場、教育委員会、民間、大学などの連携体制を図り、4つのポイントに集約できると考えております。

1つ目、授業改善、ICTを用いてのアクティブラーニング、双方向のコミュニケーションツール活用で望まれる質を高めること。2番、放課後学習は、北九州市でも視察させていただいたアダプティブ教育をもって学力低位層の学力向上をサポートすること。3番、家庭学習についてはタブレットの持ち帰りを許可する弊社では、家庭教育での自習を即し、教育格差是正ができること。4つ目、何らかの理由で登校できない児童にも学ぶ機会を絶やすことなく与え、SDGsでの、誰一つ残すことなく、教育を受けることができる環境を整えることが可能となってくる。

これら、以上4点で、新しい学習指導形態が応用的に生まれ、自宅学習をタブレット上での画像対面会話、あるいは通信再生を用いての授業の再受講も可能にするなど、さまざまな可能性にわくわくいたします。

過日、2月7日、NHKの「あさイチ」という放送で、皆様もご承知の方も多いとは思いますが、広島県教育長の平川理恵氏のインタビュー番組を観させていただき、興味もあり調べさせて

いただいたことをお伝えしたいと思います。

目指すべき教育という表題を打っておられ、「何を知っているか」から「知識を活用し、協同して新たな価値を生み出せるか」を、大きな教育の方向性として明示し、「学びの変革」と位置づけておられます。育成すべき資質・能力の項目では、過去の産業化社会から知識創造社会と変化を表題化して示しておられました。チャレンジ事業では、オランダ発祥の「イエナプラン」と呼ばれる脱画一から個別最適化と、さまざまな学びの選択肢を提供すると言われており、2020年4月、今年の4月から広島県福山市常石小学校で既にスタートされておられます。この全てがよいとも思いませんが、教育の変革に対する情熱の熱量には覚悟を感じ取れました。

弊社におきましては、「Hirakata授業スタンダード」及びICT活用で必要とされる資質を就学させる新年度が始まっております。皆様の英知を集結し、魅力あふれる枚方市の教育を、さらに、さらに向上させてまいりましょう。

結びに、3月26日教育委員会会議の後、ご説明いただいた本年度学校支援にかかわる年間スケジュールでの校長面談計画での評価育成システム目標設定面談で、校長職から初期プレゼンを受けることが、学校経営の校長職がさらに具体的経営方針を明確にして、半年後の学力に特化した面談で進捗状況の確認や成果の課題確認ができて、指導主事あるいはディレクターの訪問が、さまざまな課題に対して何を支援すべきかが効果的で効率的な訪問に変わると確信しております。中野マネージャー率いる学校支援プロジェクトチームの現場の訪問に非常に期待をいたします。この非常事態にこそ、学校経営を担う校長先生の資質をさらに求められております。

最後に、校長が変われば学校が変わる、以上、所感といたします。

○奈良教育長 ありがとうございます。

それでは、本日の協議会の案件は、以上となりますので、協議会を終了します。